

地衣類

白井中に限ったことではありませんが、実は身近な「地衣類」の世界を紹介します。3Aの廊下窓の外に広がる豊かな木々。今までも、そこに見える「愉快的仲間たち」を紹介してきましたが、今回紹介するのは、あまりに控えめで、慎ましやか（なんと読むかな？ 正解は つつましやかです。）なので、目の前に1年中いるのに、気づいてもらえない、そんな「地衣類」です。

さて、掃除で並ぶとき、いつも私の眼前には、「桜」の木があります。（以前紹介したあの「白井中で一番美しい桜の木」です。）もちろん、今は、葉を落とし、「桜」であることすら気づいてもらえない状態ですが、その「幹」には隙間なく「苔」様のものが広がっています。見た目、「苔」のようなので、なんとなく「苔」と思われがちですが、正確には、「地衣類」という別の生物です。「地衣類」とは、どんな生物なのでしょう？簡単に言えば、「光合成をおこなう藻類」（藻類の歴史は、何と30億年！ホモ・サピエンスである現生人類は、足元にも及びません！）と、「それを支える菌類」の共生体です。「光合成をおこなう藻類」が作り出す栄養を「菌類」がいただきます。その代わりに、「菌類」は、「藻類」のすみかとなって、保水・地盤を受け持ちます。つまり、双方になくてはならない「Win-Winの関係」にある生命体です。

さて、「藻類」には、実は、私たちに身近な食物にも仲間がいます。海にいる藻類、そうです！それは、「海藻」です。例えば、「わかめ・昆布・ひじき」など。（さて、よくクイズ番組でも出題されますね！「ひじき」、漢字でどう書くのかな？答えは「鹿尾菜」です。もう一つおまけ。「海の苔」「海苔」と書いて何と読みますか？正解は「のり」です。）一見、「苔」のようなので、例えば、桜の木についている白い地衣類は「ウメノキゴケ」です。（その違いは、というと、基本的に「地衣類」は「菌類」です。そのうち、「藻類」と共生関係になるものが「地衣類」と呼ばれるとのことです。）もちろん、たくましい生命力を持ち、コンクリートなど、植物が生育するには難しい場所にも繁殖します。

（コンクリートにくっついているあの「ちょっと濁ったオレンジ色のもの」がそうです。「ツブダイゴケ」というそうです。）ただ、厳しい環境でもたくましく繁殖する「地衣類」ですが、実は「大気汚染の指標生物」（「指標生物」理科で習ったかな？ある環境について調べたいとき、その調べたい条件に敏感な生物を用いて調べます。そういう生物のことをいいます。）という一面も持っています。特に、「ウメノキゴケ」のような「葉状地衣類」は、大気汚染に敏感で、「大気のきれいな所でしか見られない」とのことです。私たちにとっては、当たり前目にしている光景ではありますが、このこと一つとっても、白井中がいかに美しい環境の中にあるか、ということを再確認できますね！（「地衣類」、なんて魅力的で、不思議な生命体でしょう！多分、国語科の先生は近々「地衣類」の本を読んでいると思います。）

